

## 自己評価報告書

平成23年4月15日現在

機関番号：12102

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20720018

研究課題名（和文） ジャック・デリダの思想とデモクラシー概念の拡張

研究課題名（英文） Jacques Derrida and the extension of the concept of democracy

## 研究代表者

佐藤 吉幸 (SATO YOSHIYUKI)

筑波大学・大学院人文社会科学部研究科・講師

研究者番号：90420075

研究分野：哲学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：デリダ、来るべきデモクラシー、国家の残虐性、資本主義の残虐性

## 1. 研究計画の概要

ジャック・デリダの思想、とりわけ 1990 年代以降の彼の思想における、デモクラシー概念の拡張について研究する。デリダは 1990 年代以後、「脱構築は正義である」として「来るべきデモクラシー」という理念を提示し、現在の権力の「残虐性」を変容させるような実践として、贈与、歓待、赦しという具体的な戦略を提示した。そのような思想に基づいて、現在のデモクラシーがどのような形に変容されるかを探求することが、本研究の目的である。

## 2. 研究の進捗状況

現在までに、デリダの1990年代のテキストのみでなく、その問題系と関連する、バリバール、マルクスなどのテキストを分析した。とりわけ、ジャック・デリダの『友愛のポリティクス』、『法の力』と、カール・シュミット『政治的なものの概念』、『独裁』、『政治神学』を並行的に読解しつつ、新自由主義＝新保守主義の時代における「例外状態の常態化」（ベンヤミン／アガンベン）という事態について検討した。デリダとベンヤミンによれば、現代的な権力の特徴は、法措定的暴力と法維持的暴力との分離の「停止＝止揚」であって、その際に法措定的暴力は法維持的暴力によって「反復されている」。これが意味するのは、グローバリゼーションに伴う「セキュリティ」への関心の増大に伴って、現代の主権権力が、既存の法律の適用にとどまらず、しばしば行政命令という非立法的な手段を通じて法律を「発明」し、セキュリティの確保を図ろうとする、という事態である。こうした「例外状態の常態化」という統治パラダイムの実例を、ジョージ・W・ブッシュ

政権下のアメリカ合衆国における対テロ政策、また、サルコジ政権下のフランス共和国における、2005年に起きた郊外での暴動への対抗措置に見出すことができる。こうした事態は、シュミットの概念を用いれば、敵＝異質者を排除するための「委任独裁」の常態化に相当する。デリダが「友愛のポリティクス」や「歓待」といった概念を提唱しているのは、新自由主義＝新保守主義の時代における、このような「例外状態の常態化」という事態に対してなのである。

こうした観点に基づいて、新自由主義＝新保守主義時代の権力メカニズムを考察し、それを著書『新自由主義と権力』にまとめた。また、ポスト構造主義の権力理論に関するより幅広い分析を『権力と抵抗』にまとめた。

## 3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

(理由) 研究課題に関連して、『権力と抵抗』、『新自由主義と権力』という二冊の単著を出版した。

## 4. 今後の研究の推進方策

研究のまとめを行う。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計13件)

1) 佐藤嘉幸、「柄谷行人と新たなマルクスの哲学——『マルクスその可能性の中心』を再読する」、『思想』第1044号、岩波書店、2011年、173-186頁、査読有。

2) Yoshiyuki SATO, « Acte de résistance : les films de Straub-Huillet selon Deleuze », *Leucothéa*, n° 2, 2010, pp. 75-81. <http://www.revue-leucothea.com/> 査読有。

3) 佐藤嘉幸、「結晶イメージに逃走線を引

くこと——『時間イメージ』における反ベルクソン主義』、『思想』、第 1028 号、岩波書店、2009 年、193-209 頁、査読有。

4) 佐藤嘉幸、「構造から構造の生成へ——レヴィ=ストロースとポスト構造主義』、『表象』03 号、2009 年、査読有。

5) Yoshiyuki SATO, « Production de la précarité et de la fracture : Néolibéralisme selon Foucault », *La Rose de Personne*, n° 3, « Pouvoir destituant : les révoltes métropolitaines », 2008, pp. 135-142, 査読有。

〔学会発表〕(計 7 件)

1) Yoshiyuki SATO, « Du *Capital* à la philosophie de la reproduction : le matérialisme chez Althusser », communication au colloque international « Les ontologies matérialistes et la politique », Université de Poitiers (ポワチエ大学、フランス共和国), 2010 年 3 月 12 日。

2) 佐藤嘉幸、「経験的出来事と超越論的出来事——ドゥルーズと一九六八年五月」、セッション「一九六八年と出来事の哲学」、社会思想史学会第 35 回大会、神奈川大学、2010 年 10 月 23 日。

3) Yoshiyuki SATO, « 1968 au Japon et les nouvelles théories marxistes », communication à la journée d'étude « Lutttes subalternes, subjectivité critique et dissidence théorique », Ecole Normale Supérieure, Paris (高等師範学校、パリ、フランス共和国), 2010 年 4 月 14 日。

4) 佐藤嘉幸、「規律権力から環境介入権力へ——フーコーと新自由主義」、セッション「生政治と抵抗——フーコー理論の現在と可能性を展望する」、社会思想史学会第 33 回大会、慶應義塾大学三田キャンパス、2008 年 10 月 25 日。

5) Yoshiyuki SATO, « Surdétermination et devenir de la structure », communication à la journée d'étude « *Pour Marx* d'Althusser » (« Le moment philosophique des années 1960 en France »), École Normale Supérieure, Paris (高等師範学校、パリ、フランス共和国), 2008 年 5 月 16 日。

〔図書〕(計 4 件)

1) 佐藤嘉幸、『新自由主義と権力——フーコーから現在性の哲学へ』、人文書院、2009 年、200 頁。

2) 佐藤嘉幸、『権力と抵抗——フーコー・ドゥルーズ・デリダ・アルチュセール』、人文書院、2008 年、331 頁。

3) 佐藤嘉幸、「フーコーによるネオリベラリズム——『生政治の誕生』をめぐる」、川那部保明編、『ノイズとダイアローグの現

場——市民社会の現場から』、筑波大学出版会、2008 年、470-486 頁。

4) 佐藤嘉幸、「器官なき身体から抵抗へ——『千のプラトール』における主体化と抵抗」、小泉義之・鈴木泉・檜垣立哉編、『ドゥルーズ／ガタリの現在』、平凡社、2008 年、270-285 頁。